

ことし、富士市は20歳を迎えます。この20年間、工業都市として順調に発展し、県東部の中核都市になりましたが、いろいろなできごとがありました。

公害問題、富士山麓の開発規制、各種公共施設の建設、新幹線富士駅の建設などはまだ記憶に新しいことです。

これらの市勢発展の歴史を振り返り、21世紀への出発の年として各種の20周年記念事業を計画しています。新時代を迎える都市として、「富士山をシンボルにみどりあふれる文化と産業のまち」をテーマにまちづくりを進めていきます。



新市発足20周年の今年は、「ふじ21世紀プラン」による新しい富士市の構築に向けてスタートする意義ある年であります。

これにはずみをつける新幹線富士駅の建設は、富士山に映ろう駅の実現に全力を尽くしてまいります。

本年も皆様の温かいご支援ご協力をお願い申し上げます。

昭和61年元旦

富士市長 渡辺彦太郎



謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

本年は21世紀の都市づくりを目指す「ふじ21世紀プラン」がスタートする年であり、また本市が市制施行20周年を迎える記念すべき年でもあります。年頭に当たり、決意も新たに市勢の発展と市民の幸福を願い頑張っております。

今年もよろしくようお願い申し上げます。

昭和61年元旦

富士市議会議長 植田祥之

はだ



昭和41年11月1日、吉原市、富士市、鷹岡町が合併して、新生富士市が誕生しました。当時の人口は約16万5,000人でした。



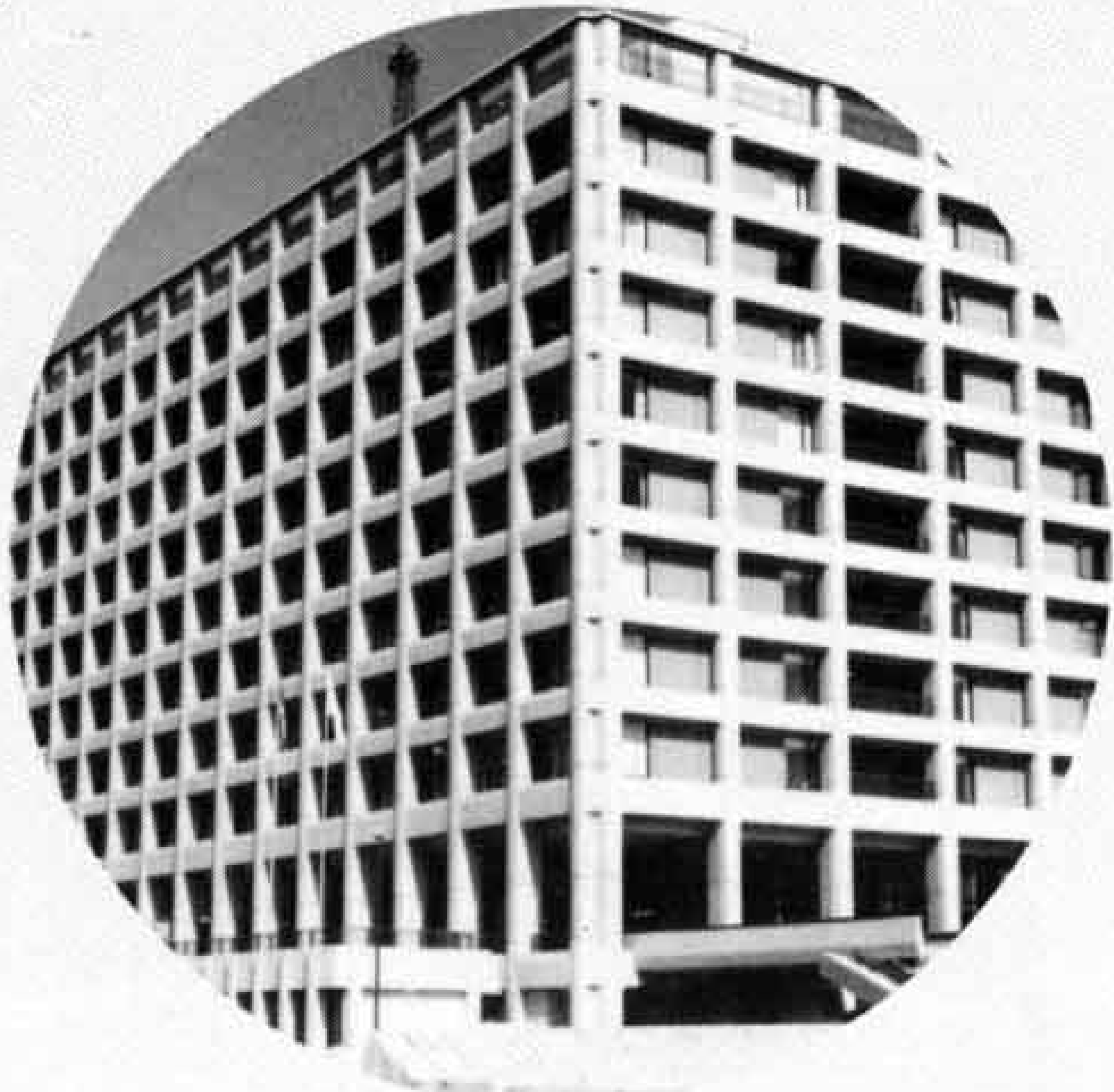
日本の大動脈となる東名高速道路が部分開通しました。

富士、静岡間が昭和43年4月、次いで御殿場までが昭和44年3月に開通し、高速道路時代の幕あけとなりました。

61年 あいの旅立ち

富士市の自然を守るため、富士愛鷹山麓の乱開発防止に、行政と市民が立ち上がりました。

数多くのゴルフ場建設計画がありましたが、このことがあって、富士市の自然が守られました。



● 合併以来続けられていた分散事務方式が、庁舎の完成によって統合されました。開庁は、昭和45年4月1日でした。



全国で初めての雨水調整ダムが、大淵片倉に昭和58年から3ヵ年をかけて建設されました。災害に強いまちづくりへの力強い第一歩でした。



田子の浦港のヘドロ処理が昭和46年4月始まりました。富士川河川敷でのヘドロ脱水処理跡地へ現在の緑地公園ができています。



昭和59年は富士市の記念すべき年になりました。8月には高度医療を目指した市立中央病院が開院、10月には待望久しかった新幹線富士駅の設置が決定したのでした。

